

新宿歴史博物館 平成二十三年度特別展

しよくさん じん おお た なん ぼ

# 『蜀山人』大田南畝と江戸のまち



大田南畝像  
(太田記念美術館蔵「古今狂歌袋」)

平成 23 年 (2011)

## 10月 15日 土 ~ 12月 4日 日

会 場：新宿区立新宿歴史博物館 (新宿区三栄町22)

休館日：第2・4月曜日 (10月24日、11月14・28日)

午前9時30分～午後5時30分 (入館は5時まで)

\* 毎週金曜日夜間開館 (～午後8時。入館は午後7時30分まで)。

観覧料：一般 300円 (常設展とのセット券は500円)、

団体割引 20名以上で1名150円、中学生以下無料

【主 催】公益財団法人新宿未来創造財団

【共 催】新宿区 新宿区教育委員会

【協 賛】日本通運株式会社 日本興亜損害保険株式会社



公益財団法人新宿未来創造財団 新宿歴史博物館

泰平の世を謳歌する江戸に花開いた、狂歌ブーム。その立役者「蜀山人(しょくさんじん)」こと大田南畝(なんぼ)は、幕府御家人御徒組・大田正智の長男として牛込中御徒町(現新宿区中町)で生まれ、50年以上当地に住み続けました。死ぬまで幕府に仕え、生涯現役を貫きましたが、狂歌師、戯作者、漢詩作者、考証随筆家など多彩な顔を持つマルチ文化人でした。そのため、文壇の大御所として多種多様な文人と交際し、江戸の文人サロンの核となって活動しました。

この当時新宿区内では、南畝のほかにも多くの名立たる文人が活躍しています。『南総里見八犬伝』の作者曲亭馬琴は信濃町に住んでいましたし、『群書類従』の編者塙保己一は南畝の友人で、現在四谷に葬られています。

本特別展は、大田南畝の文芸世界、南畝の目を通して見た江戸の町、及び周辺の文人たちの活躍を取り上げ、新宿の文化・歴史を理解することができる内容です。

**【主な展示品】** 戦災で焼失したとされていた南畝の肖像画。親友塙保己一に宛てた南畝直筆の手紙。南畝の観察眼を示す家蔵の随筆「一話一言」。長らく所在不明だった南畝自筆の由緒書。賛の入った文人画など。総点数約80点。

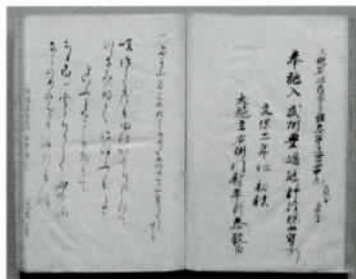
大田南畝書簡 塙保己一宛(塙記念館蔵)(埼玉県指定有形文化財)



熊野神社の水鉢 大田南畝書(区指定有形文化財)



「一話一言」43冊(国立公文書館蔵)



笹屋看板(市立市川歴史博物館蔵)

## 関連イベント

### ■記念講演会①「大田南畝における大江戸と風雅」

【日 時】10月16日(日) 14時~16時  
【講 師】損斐高氏(成蹊大学文学部教授)

### ■記念講演会②「大田南畝の狂歌活動一寛政改革までを中心に」

【日 時】11月23日(水・祝) 14時~16時  
【講 師】石川了氏(大妻女子大学文学部教授)

【会 場】新宿歴史博物館2階講堂  
【定 員】各100名(応募多数の場合は抽選)  
【受講料】無料(ただし特別展観覧券、もしくは、メンバーズ会員証の提示が必要)。  
【申込み】(往復はがき・HP) ①10月6日(木) 必着。②11月10日(木) 必着。※はがき1枚につき1名。各回申込みが必要です。②のHPは10月5(水)より。

### ■歴史・文化探訪

「江戸の文化と文人たちを訪ねて」  
【日 時】10月16日(日) 9時~12時  
【解 説】博物館史跡ガイドボランティア  
【コース】花園神社~成覚寺~正受院~太宗寺~善慶寺~本性寺~須賀神社~博物館  
【定 員】80名(応募多数の場合は抽選)  
【参加料】400円  
【申込み】(往復はがき・HP) 10月6日(木) 必着。  
※同伴2名まで。

### ■「狂文ギャラリートーク」(担当学芸員による展示解説)

【日 時】10月22日(土)、11月12・26日(土) 14時~14時40分  
【会 場】新宿歴史博物館 企画展示室集合  
【申 込】不要。展示室前に集合。ただし、特別展チケットの提示が必要となります(メンバーズ倶楽部の方は会員証)。

### ■常設展示特設コーナー 「江戸狂歌の資料」

【観覧料】一般300円(特別展とのセット券は500円)。



大田南畝肖像 石崎融思画(個人蔵)



花鳥魚類図 大岡雲峰ほか画(個人蔵)



## 新宿区立 新宿歴史博物館

公益財団法人 新宿未来創造財団  
Shinjuku Historical Museum  
〒160-0008 東京都新宿区三栄町22番地 電話(03)3359-2131  
<http://www.regasu-shinjuku.or.jp/prehaku/>

### ●付近略地図



来て・見て・楽しい  
新宿フィールドミュージアム